

繋ぐ
絆と
心意気

浜松まつり

2024
5/3(金) 4(土) 5(日)
祝 祝 祝

浜松まつり
プロモーション動画



今年のまつりはこの1冊におまかせ!

まるごと完全ガイド

<https://hamamatsu-daisuki.net/matsuri/>



2024 浜松まつり公式ガイドブック



初凧

初日の3日は、初子※の誕生を祝って、各町の大凧に初子の名と家紋を入れた「初凧」を揚げる。初凧が見事に空高く舞い上がると、町衆が初子とその家族を囲み、練りで盛大に祝福する。

※初子とは、夫婦の間に初めて生まれた子どものこと。浜松では長男のことをいうが、近年では長男以外でも初子として誕生を祝うことが多い。



開会式

浜松まつりの開幕は5月3日の午前10時。開会宣言を台図に上がる花火で、参加172か町の大凧が二斉に空へと舞い上がる。まつり本部前では各町の旗を掲げた若衆が、この時を待っていましたとばかりに勇ましい掛け声をあげながら、激しい練りを繰り広げる。



浜松つ子のまつり魂が炸裂

中田島の凧揚げ会場を舞台に行われる凧揚げ合戦。子ども達の誕生を祝う初凧が天高く勇壮に舞い、各町が威信をかけて戦う糸切り合戦が繰り広げられる。

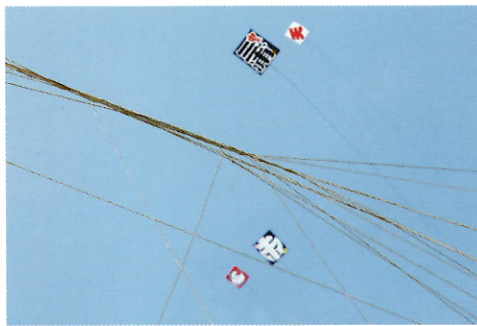


2023年浜松まつりより

動画でも
ご覧いただけます。



浜松まつりではラジコン、ドローン等、無人航空機やパラグライダーの使用を禁止します。



糸切り合戦

4日、5日は、いよいよまつり最大の見せ場「糸切り合戦」が始まる。激闘を鼓舞するラッパや太鼓の音が鳴り響く中、多い時には10町以上もの糸が絡み合う壮絶な戦いが行われる。まさに風を操る各町の力と技、意地がぶつかる瞬間だ。

「オイシヨ」の掛け声とともに糸切りに挑む各町の若衆。



ラッパ隊



ラッパ隊の音色が風揚げ会場に響き渡る。

浜松まつりの鳴りものといえば「ラッパ隊」。小学生を中心とした「子どもラッパ隊」もあり、各町年齢・性別を問わず、幅広い人たちがラッパを担当し、糸切り合戦や練りを威勢よく盛り上げる。



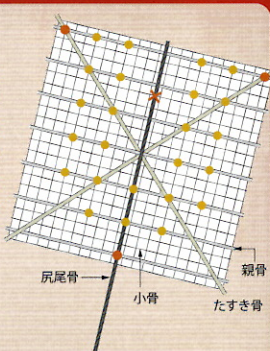
風揚げ合戦の道具
大風を揚げるために欠かせない道具が「糸枠」。特に糸切り合戦では糸を出したり引いたり、忙しく動き回る。

◀糸枠／大風揚げに必要な糸を巻いている糸車。太さ5mmの麻糸を各町1000m～3000mほど巻きつけている。

風の特徴

浜松風は正方形で真ん中から尻尾骨が出ているのが特徴。糸切り合戦を行うため、骨組みは細かく頑丈に作られている。大きさは2帖から10帖まであり、合戦には4帖から6帖が最適とされている。

- × 糸目の終点(基準)
- 親糸
- 小糸



この時、図柄が裏側からもよく見えるよう、浸透性のある「染料」で色を塗るのが特徴。色塗りの前には染料のにじみを防ぐため、風印の縁に「ロウ」を引くのも浜松の風ならではのポイント。風が美しく仕上がるように、また、空高く揚がった風がどの町のものが判別できるようにと考えられた伝統の技が、今にしっかりと息づいている。



風づくり



まつりの夜を彩る絢爛豪華な

御殿屋台

夜の中心街を優雅に練り歩く御殿屋台の行列。
子どもたちのお囃子が屋台行列に華を添え、
光と音、熱気に包まれた浜松の街なかには、
やがて最高潮の盛り上がりを迎える。



屋台引き回し

風揚げ合戦が午後3時に終了すると、まつりの舞台は市の中心街へと移される。宵闇が迫る午後6時半、メインの鍛冶町通りに、各町自慢の彫刻を施した絢爛豪華な御殿屋台が次々に登場。まつりの3日間で全85か町による「屋台引き回し」が行われる。ライトアップされた各町の屋台が彫刻などの意匠をいっそう美しく輝かせ、光の帯のようになつて、夜の街を幻想的に彩る。



お囃子

屋台の上で、笛や鉦、鼓、太鼓などのお囃子を奏でるのは、小学生を中心とした「お囃子連」。町ごとにそろいの衣装を身にまとい、かわいらしく薄化粧をした子どもたちが、まったり本番に向けて練習した成果を披露する。その優雅な音色に合わせるかのよう、華やかな御殿屋台の行列がゆつくりと街を練り歩く。



演奏する子どもたちの表情は真剣そのもの。



練習の成果を懸命に披露する子どもたち。



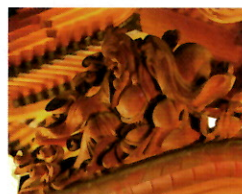
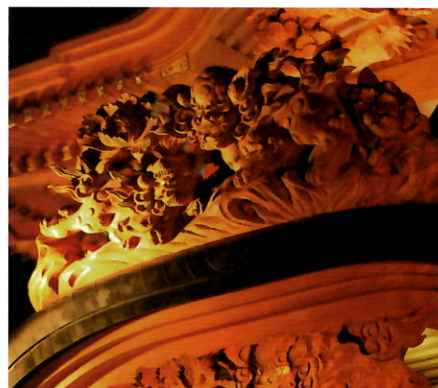
華やかな屋台の上で優雅な音色を奏でる。



動画でも
ご覧いただけます。



屋台彫刻



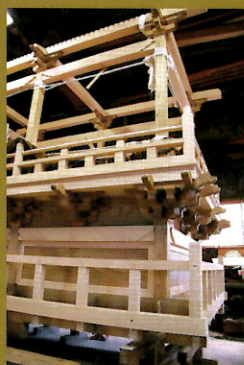
浜松の屋台は、御殿屋台の名のごとく、1台につき100点〜120点もの豪華な彫刻が施されているのが特徴。木の柵目や柱目といった年輪の模様を彫り物の造形に巧みに生かしながら、時に力強く、時に繊細にと、豊かな表現力で彫り上げている。まったり当日は各町自慢の「屋台彫刻」に、ぜひご注目を。

初子の祝い

「初子の祝い」とは一家に子どもが生まれると、町を挙げてお祝いする浜松伝統の行事。風の糸目付けから初風揚げ、夜は初子の家で町衆が祝いの練りを繰り広げる「初練り」が行われる。



屋台づくり



「御殿屋台」と呼ばれるほど華麗で豪華な浜松まつりの屋台は、ケヤキとヒノキを材料に使った白木づくりが中心。木肌の美しさをそのまま見せるところに特徴がある。
釘は一本も使わず、すべて木を組んで固定するという伝統の技法でつくられている。使いこなすほどに機能を発揮するその構造は、百年以上の耐用に耐えるもの。町の誇り、財産として各町とも大切に扱い、維持・保存されている。

衣装

【神纏(はんでん)】法被の下に重ね着する神纏(内神纏ともいわれる)。
【腹掛け】腹掛けは日本の伝統的な職人スタイル。藍染め、黒、紺が主流。鯉口シャツと合わせて着用。
【股引】腹掛けと同様、藍染め、黒、紺が主。
【地下足袋】腹掛け、股引と色を揃えての使用がおすすめ。
【鉢巻き】人気は「くわ形かぶり」か「喧嘩かぶり」。
【法被】一番上に着るのが各町ごとの法被。
※法被の長さは膝上20cm以上(規約より)
【帯】法被や神纏を締める帯。角帯と巻帯がある。
ワッペンをつけた正規の法被着用者のみ風揚げに参加できます。



まつり用品のお求めは

- 風人(かいと) / 中央区田町325-14 053-454-3641
- 祭すみたや / 中央区新津町14-1 053-489-3398
- 遠州たくみ / 浜名区高蘭61 053-586-0110
- カワイ衣料 / 中央区鍛冶町1-63 053-452-8636
- まる和 日本橋 / 中央区神田町55 053-442-1743



5年ぶりに完全復活!
大風と御殿屋台に彩られる3日間

2024 浜松まつり



歴史

長男誕生を祝って揚げた
初風が、まつりへと発展

浜松まつりの始まりは、一説によると
今から450余年前、当時の浜松を治め
ていた引馬城主の長男誕生を祝って風を
揚げたことが起源とされていますが、
定かではありません。

江戸時代に定着したとされるまつり
は、明治に入ってからさらに盛んになり、初
風・風合戦も本格化。こうした中、各所
で行っていた風揚げを1箇所にとまとめよ
うと、大正時代には和地山練兵場(現・
和地山公園)で大風合戦を開催。第二次
世界大戦の開始直前まで毎年続けら
れ、終戦後2年で復活。昭和25年には風
揚げまつりから現在の「浜松まつり」と
なっており、今日に至っています。

大正5年の風揚げ会場



昭和26~27年頃に練兵場跡地
で行われたまつり。右の木の辺り
が現在の静岡大学工学部。



昭和10年頃の田町の屋台と
田組連を写した記念写真。